

夏期の節電手法のご紹介

空調(冷房)や照明設備などのご使用を可能な限り控えていただくことや、お客さまの操業形態(使用機器の稼働時間)の調整など、さまざまな手法を効果的に組み合わせさせていただき、夏期の節電にご協力くださいますようお願いいたします。

以下に、具体的な節電の手法をご紹介します。

1. 用途別(機器別)の節電手法

ビル・工場などにおける使用機器は、①空調(冷房など)、②照明・コンセント、③その他の使用機器、の3つに分けられ、それらの機器特性に応じた節電を実施することが効果的です。

① 空調(冷房など)

- ・室内温度を原則28℃に設定
- ・不使用エリアや共用部などの空調停止
- ・日射防止による空調負荷の低減
(ブラインド・カーテンの使用 など)
- ・外気取入量の適正化による空調負荷・動力の低減
- ・エアコン室外機への日射防止などによる効率向上
- ・熱交換器やフィルターの清掃

② 照明・コンセント

- ・不使用エリアや共用部の間引き・消灯
- ・昼光利用による照明の間引き・消灯
- ・省エネ型蛍光灯やLED照明などへの切り替え
- ・長時間の離席時にはOA機器の電源を切る
- ・給茶器・温水便座などのプラグを抜く
- ・未使用機器のプラグを抜く

空調

照明・
コンセント

その他

③ その他の使用機器

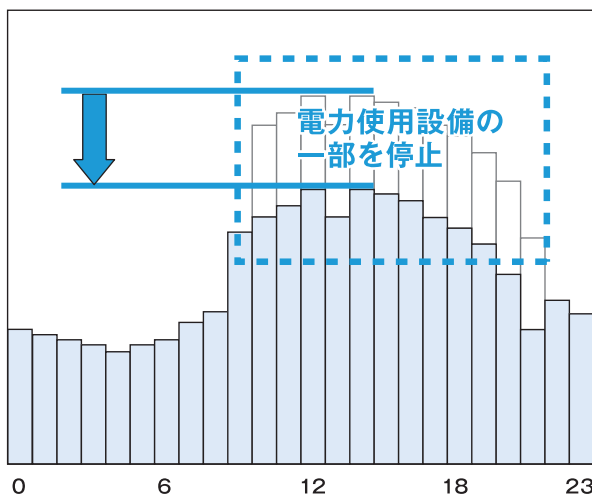
- ・デマンドコントロールシステムの導入
- ・冷蔵・冷凍ショーケースの設定温度変更
- ・エレベーターやエスカレーターの一部運転停止
- ・適切な機器メンテナンスの実施
- ・待機状態設備の停止
- ・加熱炉・加熱装置の放熱防止
- ・コンプレッサーの供給圧力低減 など

2. 操業調整などによる節電手法

① 使用機器の一部停止・夜間などへの稼働シフト

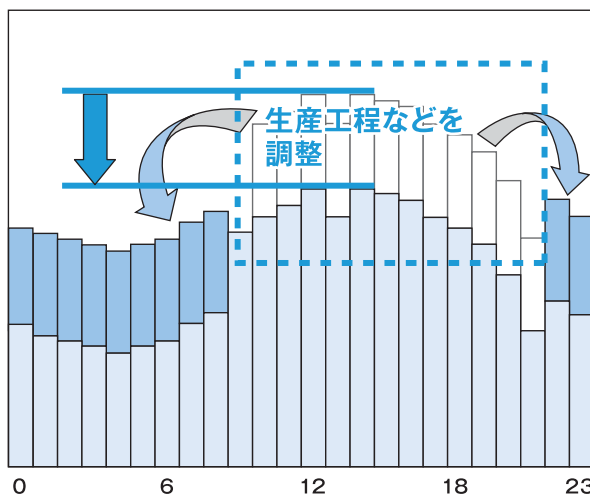
お客様の操業形態(使用機器の稼働時間)を調整することによって、電力負荷を低減します。
(例)使用する機器の一部停止、電力負荷の少ない夜間への稼働時間シフト など

【イメージ】



使用機器の一部停止

【イメージ】



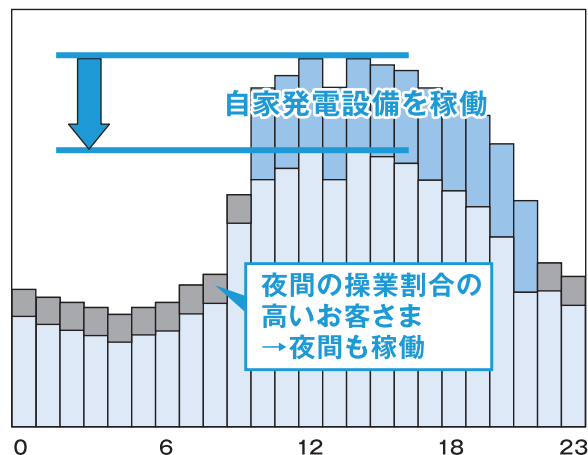
夜間などへの稼働シフト

② 自家発電設備の使用

お客様が保有している(休止中の)自家発電設備を稼働させることによって、系統電力からの受電を抑制します。

その場合、お客様の操業形態や使用する燃料の価格などに応じた適切な運転パターンを選択することが重要です。

【イメージ】



自家発電設備の運転パターン

<運転パターン>

ピークカット運転 … 電力負荷が高くなる時間帯のみに発電

ベースロード運転 … 定格に近い状態で長時間発電

※休止中の自家発電設備を稼働させる際は、関連する法令や各自治体の条例などに準拠する必要があります。

〈このお知らせについてのお問い合わせは〉

高圧のお客さま専用お問い合わせダイヤル

0120-926-488 (通話料無料) (月曜日～金曜日(休・祝日を除く)9:00～17:00)

※お問い合わせの際には、誠にお手数ですが、お手もとお客さま番号をご用意ください。

お客さま番号は、電気ご使用量のお知らせ(検針票)や領収証などからご確認いただけます。

※お問い合わせの際には、電話番号をお間違えないようご注意ください。